

編集後記



題「しょうがい者とも仲良くする未来」
「しょう害者だから」と、みんなに特別あつかいされていたり、しょう害者も同じ人間だから、みんなでなかよくすごす未来になってほしいから、この絵を描いてみました。

自分の社会の未来は、この絵のとおりです。なんて書いてあるかは、自分は未来に大きなラーメンの工業を作って世界中で人気があることです。未来の世界はもうすぐ終わりますが、ラーメンの力を借りれば、人々は安心して死ぬことができます。



このイラストは、右から左へと、私が将来になりたい職業をさまざまな形で表しています。教師、政府で働く人、獣医、アーティスト、そして私を待っているものはたくさんあります。私は個人的に、自分が何になりたいかまだわかりませんが、英語を話したり、リードしたりといった自分のスキルを活かすことを目標にしています。フィリピンでは、数か月前にここに引っ越してきて以来、私の夢は今になりたいものとは異なっていました。その中で、私の夢も変わりました。将来、私は社会が、外国人として、自分自身を十分に表現できる場所、そして自分が快適に過ごせる場所であってほしいと思っています。

このプロジェクトを締めくくるための報告書を読み返しながら何度も涙が出そうになりました。予備調査も入れると三年間に及んだこのプロジェクトには本当に多くの方が全力で協力して下さいましたこと、そしてそのお一人お一人の教室にたくさんの子どもたちがいたことを、改めてかみしめています。私たちの研究の大きな理論的基盤を提示している Cummins 先生のことばに “human relationships are at the heart of schooling (Cummins, 2001, p. 1)” というものがあります。この研究の成功はまさに、皆さんが子どもたちとのつながりを大切に、子どもたち同士のつながりを大切に、そして今回出会った仲間たちとのつながりを大切にしてくださったからあったのだと思います。そうした本当のつながりがこのプロジェクトによって生み出されていったこと、そしてそのプロジェクトに関わったことを本当に幸せだと思っています。「ことばの力のものさし」が、多文化多言語の子どもたちを輝かせる教育実践のために広く使われていくことを、心から祈りつつ。(A.S)

「30本ノックの〇〇です」という方と各地でお会いすると、盟友と再会したような気持ちになります。月1回約7時間×6か月間の「30本ノック」(評価WS-A)は、参加者の皆さんにとってもかなりハードだったと思いますが、進行係の私も毎回クタクタでした。雑音にならないように気を配りつつ場を盛り上げ、電話やチャット等の個別対応をしながら休憩時間にはとりあえずトイレに行き、おやつを口に入れつつ次の映像等の準備をして、また映像を見ながら記述文とにらめっこ…30回繰り返しました。地域別ワークショップ(評価WS-B)も、同様でしたね。そして、授業実践者の皆さんとは実際の学校や活動の場で、議論をたくさんしました。メールや電話のやり取りも頻繁でしたね。

こうしたことを思い出しながら、ご協力いただいた皆さんのお名前をお一人ずつ確認しながら本書の第三章をまとめていて、何度も涙がこぼれてしまいました。ご協力いただいたすべての方に、感謝の気持ちでいっぱいです。皆さんと心をつなげて取り組んだ本事業の成果が、子どもたちの未来を切り拓くことにつながりますように。(Y.K)

今、完成した「ことばの力のものさし実践ガイド」、「まるわかりガイドリーフレット」、「改訂版DLA」、「DLA〈読む〉追加テキスト」3冊、「改訂版DLAワンポイントレッスン動画」3本、「授業実践動画」、そして「事業報告書」を手元に並べてみながら、「本当にやり終えたんだ」「終わったんだ…」と、ようやく実感がわいてきています。「ことばの力のものさし」〈読む〉に関していえば、その原型は10年以上前、2012年の段階でできていました。しかし当時は、ほとんど誰の目にも触れず、むしろ「評価」であるがゆえに、他者の見方を縛るものになるのではないかという不安から、広めることが怖くもありました。ですが、今回のプロジェクトは違いました。一つ一つのつながりの中で生まれる小さな対話の積み重ねが、やがて大きなうねり(コリエンテ)となって、社会そのものを変えていっている——そんな手応えが感じられるものでした。皆さん「大変だったね」と労ってくださいますが、むしろ、たくさんの人と力を合わせてここまでとり着けたことへの感動と喜びのほうが何十倍も大きいです。

子どもたちのすべてのことばの力に光をあてる「ものさし」が、これからも皆さんに愛され、育まれていきますように。すべての方に、心からの感謝を込めて。(C.S)

この3年間、子どもたちの未来のために寝る間も惜しんで走り続ける先生たちの姿をずっと見てきました。毎日夜中の2時3時までメールが飛び交うのは当たり前で、毎週のように全国各地を飛び回り、どんなに忙しく疲れていても休まず妥協は絶対に許さない... 同じ子育て中の女性とは思えないバイタリティ溢れる働き方をされていて衝撃を受けたのを覚えています。

すべては目の前にいる子どもたちの為に、常に全力投球でこの事業に愛を注ぎ続けた先生たちと、事務局員の増谷さん。この事業で出会ったすべての方々が温かく素敵な人たちでした。本当に愛で溢れる環境でお仕事をさせていただき感謝しかありません。3年間、ありがとうございました。(M.K)

今まで気づけなかったことに気づけること、今まで分かっていたと思っていたことを捉え直せること、驚きや発見、学びたい気持ち。今回産声をあげた「ことばの力のものさし」は、子どもはもちろん、子どもを見取る大人にとっても、人間が本来持つ喜びへ導いてくれるツールとなるのではと感じています。なぜならここまで本当に我が身を削って取り組まれた先生方はじめ、推進委員、教育委員会、ワーキンググループ校の先生方、バディの皆様、ワークショップや実践にご参加下さった現場の皆様、多言語の翻訳や校正にお力添えいただいた皆様、数えきれない程の多く皆様の熱意の中で生まれたものだからです。

この3年間で自分自身の社会の解像度がグッと上がり、この社会にはまだまだ希望があること、人々は協力し合えること、世界は変えられると信じられること、たくさんのことを改めて手触りを持って感じさせて頂きました。事務局として至らない点も多い中、皆様のあたたかなご理解とご協力に心より感謝致します。ありがとうございました。(そして事務局として同志としてご縁頂いた小段さん！ありがとうございました！)(Y.M)



撮影の様子（2023年5月17日）



撮影を見守る推進委員および関係者（2023年6月27日）



高校ワーキンググループ交流会 in ふくい
(2023年12月27日)